

猪名川上流広域ごみ処理施設
環 境 保 全 委 員 会

第 5 6 回委員会会議録

平成 3 1 年 3 月 1 4 日

猪名川上流広域ごみ処理施設組合

猪名川上流広域ごみ処理施設環境保全委員会

第56回委員会会議録

1. 日時：平成31年3月14日（木） 18：30～19：35

2. 場所：川西市役所 4階 庁議室

3. 出席者 (◎委員長、○副委員長)

学識経験者	◎吉田 篤正	大阪府立大学大学院工学研究科教授
学識経験者	中嶋 鴻毅	元大阪工業大学情報科学部情報メディア学科教授
学識経験者	原田 正史	大阪市立大学大学院医学研究科特任教授
学識経験者	服部 保	兵庫県立大学自然・環境科学研究所名誉教授
学識経験者	○尾崎 博明	大阪産業大学工学部都市創造工学科教授
学識経験者	渡辺 信久	大阪工業大学工学部環境工学科教授
周辺地域住民代表	清水 正克	国崎自治会
周辺地域住民代表	鈴木 啓祐	猪名川漁業協同組合
周辺地域住民代表	北野 正	黒川・新滝地区
周辺地域住民代表	倉脇 也寸志	田尻下区
周辺地域住民代表	久保 文昌	野間出野区
組合区域住民	奥山 道夫	川西市在住
組合区域住民	森口 久美子	川西市在住
組合区域住民	佐野 和美	猪名川町在住
組合区域住民	中野 仁	豊能町在住
組合区域住民	難波 希美子	能勢町在住
関係行政職員等	高石 豊	阪神北県民局
関係行政職員等	栢川 容子	川西市
関係行政職員等	曾野 光司	猪名川町（欠）
関係行政職員等	森畠 正己	豊能町
関係行政職員等	前田 博之	能勢町（欠）
事務局	吉川 泰光	施設組合事務局長
事務局	栢川 隆雄	施設組合事務局次長兼総務課長
事務局	岡崎 健作	施設組合事務局施設管理課長
事務局	中村 勤	施設組合事務局施設管理課主幹

+

4. 配付資料

- ・第55回環境保全委員会会議録について（資料1）
- ・第56回環境保全委員会調査結果の概要
- ・排出源モニタリング
 - ①大気質（排ガス）（資料2-1）
 - ②水質（資料2-2）
 - ③処分対象物（資料2-3）
- ・環境モニタリング
 - ①植物調査（資料3-1）
 - ②大気調査（2回目）（資料3-2）
 - ③水質調査（2回目）（資料3-3）
 - ④騒音・振動・低周波音調査（資料3-4）
 - ⑤土壌調査（資料3-5）

その他

5. 次第

1 議事

- (1) 第55回環境保全委員会会議録について（資料1）
- (2) 環境影響調査結果について
 - 2) - 1 排出源モニタリング
 - ①大気質（排ガス）（資料2-1）
 - ②水質（資料2-2）
 - ③処分対象物（資料2-3）
 - 2) - 2 環境モニタリング
 - ①植物調査（資料3-1）
 - ②大気検査（2回目）（資料3-2）
 - ③水質調査（2回目）（資料3-3）
 - ④騒音・振動・低周波音調査（資料3-4）
 - ⑤土壌調査（資料3-5）

2 その他

開 会 18時30分

○事務局

皆さん、こんばんは。

それでは定刻になりましたので、第56回猪名川上流広域ごみ処理施設環境保全委員会を開会させていただきます。

この会議を始めます前に、猪名川上流広域ごみ処理施設組合の管理者でございます越田川西市長から、お世話になっておりますこの環境保全委員会の皆様に、一言ご挨拶できたらということで、本日ここに参っておりますので一言お願いしたいと思います。

○管理者

皆さん、こんばんは。ただいまご紹介をいただきました川西市長を務めておまして、施設組合のほうも管理者を務めております越田でございます。日ごろは環境保全委員会の皆様におかれましては、この国崎クリーンセンターの安全な運営、そして何より環境負荷への影響を、どういうふうに軽減していくかということのモニタリングを通じて、私たちの運営に対して本当にご協力をいただいていることに、心からお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

本来であれば、もっと早く皆さんとご挨拶をということでありましたが、ちょっと10月末に就任後なかなか、ちょっと時間がということで12月の会の予定も存じていたのですが、本会議等の関係で出席できませんでした。私といたしましては、やはり私自身もこの施設、実は大学生の時からかかわっておまして、一番最初の施設組合の準備をしているその段階からかかわっておまして、その後市議会議員になりまして、まさに完成の場所にも立ち会っていたわけでありますが、当時からしっかりと世界一の環境に配慮した施設をつくらうということが我々の思いでもありましたし、そのためには我々行政の力だけではなくて、地域住民の皆さんはもとより本当に各自治体の皆様、またそれぞれの専門家の皆さんにお知恵をお借りしながら市民の皆さんにとって、地域の住民の皆さんにとって安心できる、安定的なそんな施設運営をこれからも続けてまいりたいと思います。

皆様には、引き続きさまざまな面でご協力をいただきたいと思います。私としても全力で頑張ったいと思いますので、これからもどうかよろしく願いいたします。

本日は、どうもお時間いただきましてありがとうございます。

○委員

市長さんが来ていただけるっていうのは初めてじゃなかったらどうか。

○管理者

また皆さんともいろんな形で意見交換もさせていただければと思いますので、どうかよろ

しくお願いいたします。

○事務局

それでは会議を進めてまいりたいと思います。

まず、本日の委員の出欠についてご報告いたします。関係行政職員等の曾野委員と前田委員のほうから欠席の連絡が入っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、それ以外の方は、またおみえになると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日施設の管理運営業務を委託しておりますJFEエンジニアリング株式会社、環境影響調査業務を委託しております株式会社オオバのほうからも出席していただいておりますので、ご報告いたします。

続きまして資料等の確認をさせていただきます。

本日の会議資料につきましては、事前に郵送させていただいておりますのでご確認をお願いいたします。

まず、本日の次第が一番上でございます。その次に、第55回前回の会議録がございます。その次に、A4で1枚もので第56回環境保全委員会調査結果の概要がございます。その次に、ホチキスどめになっております資料2と資料3が1冊になっております。まずは、排出源モニタリングの資料といたしまして資料2-1。大気質中間報告この部分が2-1-8ページまでございます。その後につきまして資料2-2の水質中間報告といたしまして2-2-3までです。資料2-3処分対象物中間報告といたしまして、2-3-3まででございます。次に、環境モニタリング資料といたしまして資料3-1動植物調査結果報告（植生調査・クモノシダ調査）3-1-17ページまでございます。続きまして資料3-2大気質調査中間報告2回目といたしまして3-2-18ページまでございます。資料3-3といたしまして水質調査中間報告2回目といたしまして、3-3-4まで。次に、資料番号はちょっと記載漏れとなっております申しわけございません。騒音・振動・低周波音調査報告というのがございまして、それが資料3-4となります。右肩のほうに資料番号3-4と記入していただけたらと思います。この資料が3-4-29ページまでございます。次に、資料3-5土壌調査中間報告といたしまして3-5-13ページまでとなっております。最後に資料4といたしまして、気象庁降雨量データをつけております。資料等の確認は以上でございます。不足等はございませんでしょうか。

なければ、委員長、議事の進行につきましてよろしくお願いいたします。

◎委員長

それでは議事に従いまして、まず最初に、前回の会議の議事録のほう、資料1。

○事務局

それでは第55回の会議録についてでございます。会議録の案につきましては事前に確認の依頼をいたしまして、委員から修正の申し入れ等をいただいた部分や字句の訂正などを反映して調整しております。

以上、会議録についてでございます。よろしくお願いいたします。

◎委員長

はい、それでは会議録ですが、皆さんも一度見ていただいていると思います。修正とかも入っているということですが、何か修正あるいはご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

なければ、議事録のほうはこれで確認のほうは終わりにさせていただきます。

それでは、続きまして2の環境影響調査結果についてですけど、まずは排出源モニタリングについてご報告をいただきます。はい、どうぞ。

○事務局

それでは、環境影響調査結果についてご説明させていただきます。会議録の次のページに、調査結果の概要といたしまして、今回ご報告させていただきます排出源及び環境モニタリングの調査結果を取りまとめております。なお、今回の排出源及び環境モニタリングの調査結果につきまして、事務局で結果を見る限り注意を必要とするようなポイントは見当たりませんでした。

また、ご説明させていただく資料については、事前に当委員会の学識経験者評価部会の委員の方々に資料を送付し確認をしていただきましたが、今回の調査結果に対しまして、ご意見等はいただいておりますことをご報告申し上げます。

まず、環境影響調査の排出源モニタリング結果について資料に添ってご説明させていただきます。

資料2-1の大気質（排ガス）中間報告をご覧ください。2-1-1ページに調査内容と調査結果の概要を、2-1-2ページから8ページは調査結果となっております。2-1-2ページに戻りまして、排ガス全般の調査につきましては、平成30年11月14日と12月7日に実施いたしまして、調査した全ての項目において、管理基準値以下となっております。

ページ少し飛びまして2-3-3ページをご覧ください。排ガス調査におけるダイオキシン類測定値変動グラフをつけており、グラフの下には1号炉及び2号炉の活性炭交換時期を記載しております。

2番目に水質調査でございます。資料2-2をお開きください。2-2-1ページには調

査内容と調査結果の概要を、2-2-2ページは下水道放流水の調査結果を、2-2-3ページは図1として採水地点を示しております。2-2-2ページに戻りまして、下水道放流水の水質につきましては、毎月1回の調査を行っており、全ての項目において基準値以下でございました。

3番目に処分対象物でございます。資料2-3をお開きください。2-3-1ページには調査内容と調査結果の概要を、2-3-2ページには調査結果となっております。

溶融スラグ及び溶融飛灰固化物は、有効活用をするため再資源化事業者へ引き渡していることから基準の適用はございません。

環境影響調査の排出源モニタリング結果についてのご説明は以上でございます。

◎委員長

はい。ありがとうございました。

事務局のほうから排出源モニタリングについてご報告いただきました。何かご質問あるいはご指摘はございますでしょうか。

○委員

この調査項目の中にCO₂が入っていないんですけれども、今はやはり地球レベルで気候変動を問題にしている状態で、CO₂のモニタリングがないっていうのはどういうことなんでしょうか。

平成16年の環境影響評価書のあらましっていうのがあるんですけれども、そこには地球温暖化についてのモニタリングもしていくというふうなことが書かれているようなんですけれども、ご回答をお願いします。

○事務局

CO₂の測定がないという件につきましてですが、連続測定の項目につきましては、一酸化炭素COを計っておるわけですが、これは焼却施設の運転管理のために必要な項目ということで調査をしております。CO₂につきましては大気中に含まれているものでございまして、これを濃度にどれだけ影響を与えるかということについては調査をしておらないわけですが、ただ、焼却しているごみ質ですね、この中でいわゆる石油由来のものですとか生物由来のものですが、そういったものを分析しておりまして、それについてどれだけ影響を与えているかというのは燃やしているものを通じて把握しておるといようなことをしております。以上でございます。

○委員

この議会の中で一度問題になっていて、そのときにはCO₂の排出量が数字として出ているんですけれども、それ以外では測ってはいないのですか。

○事務局

CO₂濃度自体は、排ガス測定中で測っているというようなことはやっておりません。

○委員

平成24年度で5,006トン、これは全総排出量というふうに議会のほうでは返答をされているようなんですけども、このときだけ測ってて、毎年測ってないんですか。

○事務局

今ちょっと議会の資料が手元にないものですから、恐らくその濃度を測ったのではなくて、焼却したごみ質です。それから導き出して計算して出したということだろうというふうに思われます。以上です。

○委員

ごみ中の炭素の含有量は、大ざっぱにいましてごみ1トン当たり220から230kgぐらいの炭素が入っています。これはごみの組成として若干変わってきますが、例えば、紙ですと45%プラスチックだと70%ぐらいとかありまして、大体数字は決まっております。それらを基にそのごみの組成、またカロリーから炭素の量がどれぐらいかというのは、かなりの精度でわかります。

そこらごみの燃やしたトン数から、ほぼ100%がCO₂になりまして、ほんのわずかCOになったり、あるいは未燃の炭化水素といったことはありますが、100%CO₂に変化すると計算されたものと思われま

ただ、今事務局がおっしゃいましたようにカーボンCが紙由来ですとか、木由来であればバイオマスカーボンですし、プラスチック由来であれば、化石燃料由来のカーボンだということですので、それがどの割合かというのは紙や木の割合、プラスチックの割合から計算する方法と、実際にCO₂を採取してそれを実は、ちょっとここから先は私は何をやってるのか分からないんですけども、高エネルギーを使った分析方法で、そのCの由来を調べるという研究をしているのも聞いたことがあります。いずれにしても排ガスの中に入っているCO₂は、バイオマス由来のCとそれから化石燃料由来のCと両方入っております。割合は、若干燃やすごみによって違いますが、それは何とも私も言えません。半々ぐらいだと思います。

ですので、CO₂の量をここで測るというのは、実は発生するCO₂の量を求めるために測るというよりは、排ガスの流れをどこにどれぐらいのガスが生じているか。マスバランスが合うかどうかを調べるために、実は調査ではその数字は知りたいことが多いんですけども、日常的な燃焼管理では一酸化炭素を調べることはありますが、二酸化炭素を調べることは通常はございません。

+

ただ、気候変動に対するごみ焼却が幾らかの寄与してるっていう心配もありますので、ごみ由来のCO₂の量は幾らかということを計算することはあります。それは測定で測るのではなくて、ごみの組成から計算をするっていうのが一般的だと思います。ご心配はそのとおりだと思います。

○委員

先ほどの議会の中でのお話で、そのCO₂の排出の94%が灰溶融炉だという答えがありまして、それは、その今お話では燃やしたものの由来によって変わるっていうことなんですけれども、灰溶融炉ではどういうことになるのでしょうか。

○委員

その計算をされてるんですね。灰溶融はものすごくエネルギーを使っております。こちらでは電気使ってるんですか。

○委員

都市ガスです。

○委員

都市ガスですか。都市ガスを使っておっても、その中に都市ガスにメタンですとか、プロパンが入ってますから、そのカーボンが外に出ていきますので使ったエネルギーに応じて二酸化炭素は出るということになりますので、ごみを燃やして出る二酸化炭素プラス灰溶融によって出る二酸化炭素がカウントすると、そんな数字になるんだと思います。

○委員

じゃあ、ガスじゃなかったらこの数字は大分変わってくるんですか。

○委員

いや、電気を使っても二酸化炭素は出るんですけども、原子力発電所を使うと出ないとか、そういういろいろややこしい話になりますので、ちょっと念押しで。

○委員

はい。ありがとうございます。もう一ついいでしょうか。

○委員

水銀の件なんですけれども、去年の4月に大気汚染防止法が変わって基準値っていうのができたと思うんですけども、このパンフレットをこの2月に国崎クリーンセンターへ行ってもらった分なんですけども、この中にも排ガス基準っていうのがあるんですけども、そこは法規制が規制なしになってるんですけども、これは書きかえたほうがいいんじゃないかと思うんですけども。

○事務局

おっしゃるとおり水銀の基準につきましては、もともと自主管理基準ということで取り扱ってありましたところ、昨年の法改正で法基準が設定されております。パンフレット自体が、ちょっと何分古いものですから次回作り替えるときには、きちんと訂正をしておきたいというふうを考えております。以上です。

○委員

でも、できたら正誤シールとか貼って見学者には渡すべきじゃないかなと思うんですけども。

○事務局

そのような対応も考えていきたいと思っております。

◎委員長

よろしいでしょうか。他、何かございますでしょうか。

なければ、次の議題に移りたいと思います。次の議題は環境モニタリングということで資料があがっておりますので。

○事務局

それでは、環境モニタリング結果についてご説明いたします。

まず、植生調査でございます。資料3-1ページをご覧ください。3-1-1ページに調査概要を、3-1-2ページには植生調査区位置図を、3-1-3ページから14ページには調査結果を示しております。

調査は、平成30年9月25日、26日に実施いたしました。本年度の調査地点はNo. 227からNo. 240でございます。

今回調査区では、エドヒガンを5調査区にて確認しており、安定した生育環境が維持されていることを確認できております。

平均出現種数といたしましては、平成18年度以降減少傾向にあり、平成25年度には16.9種まで減少しております。その後、平成26年度は26.6種と増加し、今回は21.9種とやや減少はいたしましたが20種以上を確認しております。

防鹿柵にて保護された調査地区を、平成22年度より継続して調査を行っております。全体の種数は、おおむね20から30種で推移しており、経年的な変化は認められませんでした。

次に、クモノスシダ調査でございます。3-1-15ページをお開きください。3-1-15ページに調査概要と調査結果を、3-1-16ページには、クモノスシダの確認状況と生育状況の写真をつけております。

+

平成30年9月26日に調査した結果、生育地の岩場に生息しているクモノスダが確認されており、確認株数は長期的には増加しており、また確認固体は、いずれも葉の裏面に孢子嚢を付けており、生育状態は良好な状況でございます。

2番目に2回目の大気質調査でございます。資料3-2ページをご覧ください。3-2-1ページに調査概要を、3-2-2ページには大気質調査地点位置図を、3-2-3ページには測定方法と調査期間を、3-2-4ページから18ページは調査結果となっております。

7日間連続測定は、平成30年11月16日0時から11月22日の24時までの間で実施いたしましたところ、全調査地点において全ての項目が環境基準値を下回る値となっております。

1検体測定項目につきましては、環境基準値等が定められている項目については、全調査地点において環境基準値等を満足した結果でございます。

3番目に水質調査でございます。資料3-3をご覧ください。3-3-1ページには調査概要と測定方法、調査時期を、3-3-2ページには水質調査地点位置を、3-3-3ページ、4ページには調査結果となっております。

調査を平成30年11月19日に実施したところ、田尻川にて環境基準値が定められている項目は全て基準に適合しております。

4番目に騒音・振動・低周波でございます。資料3-4をお開きください。3-4-1ページには調査概要を、3-4-2ページには騒音・振動・低周波音調査地点位置図を、3-4-3ページから14ページには調査結果を示しております。

調査は、平成30年12月5日の12時から6日の12時でございます。まず、敷地境界、一般環境ともに騒音・振動については環境基準値及び規制基準値を下回っております。

低周波音についても指標値である一般環境中に存在する低周波音レベル、平均的な被験者が知覚できる低周波音レベルを下回っております。

また、ごみの搬入車両の通行に伴う騒音・振動については、北側、南側とも環境基準値、要請基準を下回っております。

最後に土壌調査でございます。資料3-5をお開きください。3-5-1ページに調査概要と調査日を、3-5-2ページ、3ページは土壌汚染調査地点位置を、3-5-4ページには調査結果となっております。

平成30年10月2日に調査した結果、いずれの地点においても環境基準を満たす値でございます。以上でございます。

◎委員長

ありがとうございました。今報告いただきましたが、何かご指摘。はい、どうぞ。

○委員

3-1-14ですか。下の(3)のところです、エドヒガンの生育状況ですが、1行目のところでは安定した生育が維持されているものと考えられる。その次の行からは、稚樹はほとんど確認されていない。危機的な状況にあるとって、何か文書ががたがたになってるんですね。ですから最初の多分1行目は、エドヒガンの成木について、多分書いてるんだと思いますよね。それを書かれた後に、しかしとか入れて低木とか稚樹は全然見られないと、そういう危機的な状況にあると、そういうふうな書き方をしないと最初にもう安定した生育が維持されていますと。それがものすごく強く出てしまうので、実際はかなり危機的な状況にあるんだろうと思いますので、そこら辺の文書の訂正をお願いいたします。

○事務局

おっしゃるとおり成木は安定しておるという状況でございます、わかりやすく表現変えさせていただきますと思います。以上です。

◎委員長

ありがとうございました。他に何かご質問あるいはご指摘ございますでしょうか。

○委員

水質調査なんですけれども、平成14年の環境影響評価実施計画に関わる市町村長意見と、それに対する事業者の対応っていうものを見ると、井戸水も調べるようなことが書いてあったんですけれども、それはどうなってるんでしょうか。

○事務局

井戸水につきましては追跡調査いうんですか、施設の操業に伴うそういう環境影響の調査では調べたというようなことが、当初周辺環境を調べる中で、既存の井戸水についても調べたということがあったというふうな記憶はしておるんですけども、その辺の詳しい状況については、はっきりした記憶がございません。以上です。

○委員

ここに書いてありますのは、事業予定地周辺の井戸(事業予定地)直近の民家井戸における地下水、ダイオキシン類調査(1回)って書いてあるんですけども、実施しますってなってるんですが、これ1回だけ調べても意味がないような気がするんですけども、モニタリングとしてやっぱりずっと調べていかないと意味がないと思うんですが、どうなんでしょうか。

○事務局

ダイオキシン類につきましては、水に溶けることがない物質だというふうなことを聞いております。したがって表層水を調べれば、井戸の影響が出ないだろうということは推測

されるということで追跡調査は行っておらないということでございます。以上です。

○委員

地下水の調査ですね。排水とかがあるときに地下水の影響が考えられるので、本来、平成24年ぐらいから、非常に地下水を環境省とかも気にしてしまっていてですね、調べるべきところは調べるという方針だとは理解してはいますが、ここに関しましては途中から下水道工事になってまして、排水から直接地下水へいくというような、そういうことはないと考えられます。もちろん地下水が汚れる原因は他にもありまして、それも調べるということでしたら、そろそろなんですけど地下水が汚れる要因は、例えば窒素ですと肥料でありますとか、いっぱいありますので疑義がないとは言いませんけれども下水道放流になってからは、今のところ特別なことがない限りは不要であるというふうに考えてます。よろしいですか。

ちょうど水質のお話が出ましたんで、少しだけちょっとお願いをしたいと思います。3-3-1ぐらいから水質のお話が出てきて、事前に見せていただいて問題になるようなことは一切ないというふうに考えますんで、事務局のほうには、特に申し上げてはおりませんが、以前にお願いしたことがあります。それはこの調査をなされたときの天候というか雨、特に雨を気にしてるんですけども、そういった情報を必ず入れてくださいねということをお願いを、以前からしておりますけど、特に記載はないんです。

中身を見ますと、例えば、DO溶存酸素量は、非常に高いんですね。これ過飽和とあってあり得るんですけど、恐らくこの日はそういうところから晴天時だろうとは思うんですけども、以前そういったことが曖昧だったものですからお願いをしまして、できましたらその採取された日の天候と数日前ぐらいに大雨がなかったかぐらいの、それぐらいのことは記載をいただければなと。今回は非常にいい結果で大変いいんですけども、もし何か異常を感じたら、そういう記載があれば。あえてちょっとお願いをしておきます。

○事務局

一応天候の資料としましては、資料4で気象状況は記載させていただいてはおるんですけど、これを調査内容概要のところに、その数日前の天候を記載させていただければよろしいでしょうか。

○委員

分かるようであれば、きちんここに書いていただいてももらいたいですけど、今ちょっと見てみたらどこにもなかったように思ったものですから。

◎委員長

それでは、今の気象条件につきましては水質調査自体はまあ直接水が出るかどうかという関係があるので、そのことも含めてここにも必要な事項だけ書いていただくといことをお願い

いします。他に何かございますか。

○委員

この2月20日に能勢町の環境対策検討委員会、私入ってるんですけども、そこで国崎クリーンセンターに見学に行ってきました。その中で手選別の部分がありまして、この中に書いてあることではないんですけども、その見学、工程表の中にも臭いによる体調不良の可能性があるというふうに書かれています。そして実際、手選別の部分に行かれた人で、一人ちょっと気分が悪くなったっていう人もいました。寒かったのも、その臭いは大したことなかったと思うんですけども、前にちょっと行かれた人が、もうちょっと秋ぐらいに行かれたんですか、夏か秋ぐらいに行かれてすごく臭いがきつくて、気分が悪くなったというふうにおっしゃってます。

環境っていうことに関して私たちは、この今見てるのは、このクリーンセンターの外の環境を大体見てるようなんですけども、この内部での環境どうしてもごみを扱うので臭いがきつくなって体調不良を起こすというようなことは考えられると思うんですけども、実際そこで働いてた人に聞くと、毎日シャワーを浴びて服を毎日かえて、このクリーンセンターを出て行くとおっしゃってます。だから、それだけやはり悪い環境で仕事をなさってらっしゃるといことは推測されます。そういった環境について何か作業員の方の体調不良とか、そういうことをモニタリングされているのでしょうか。お願いします。

○事務局

ごみ処理施設でございますので、いわゆるその腐敗したようなものが入ってきやすい。そういったものが捨てられて入ってくるものでございます。臭いは付き物だというような状況でございます。また、そういった中でも手選別の作業をしている部所につきましては、要はリサイクルに供さない汚れのひどい物、そういったものを取り除いてリサイクルができるようなきれいなものにより分けて作業をしていただくようなことをやっております。この点につきましては、ごみを排出される住民の方々に汚れ取れてないものにつきましてはリサイクルに向かないということで、そういったものはそういったプラスチックの容器包装のリサイクルには回さないようにしてほしいということは、これは啓発で常々申入れさせていただいてるところではあるんですけども、やはりどうしてもやっぱり一定量そういったものが入ってきてしまうので、臭い等がどうしても作業場に発生してしまうというような状況です。作業場での臭いにつきましては、換気もしておりますし交代での作業とか、作業環境については一定の配慮をさせていただいております。

今のところ何かその健康に著しく影響があるというようなことは、事業者さんのほうから伺っておりません。何かそういった申出がありましたら速やかに改善をしていきたいという

ふうに考えております。以上です。

○委員

ここにいらっしゃる方もそうだと思うんですが、実際すごい環境。そんなに私が思ったよりは、聞いてたよりは汚くなかったんですけども、やはりあれを見たら衝撃的でした。どんだけごみを出す人が分別してないかっていうのがよくわかって、注射針が入ったり、本当にガラスの物とかが入ったり、マヨネーズはほとんど残ったようなものが捨てられてたり、そういうのを全部手選別されてたんです。

やっぱりこれ話で聞くよりも実際見たり、臭い嗅いだりしたらかなりちょっとびっくりしたので。ここの手選別のところは普通では見学できないって聞いてるんですけども、皆さんも行っていただけたらありがたいなと思います。

それと先ほどいいましたCO₂の問題ですけども、私たち素人になるとCO₂は何となくよく聞くんで、割りと身近に感じられる数値なので、できましたらそういうようなCO₂の排出量も、先ほどおっしゃられたように簡単に計算できるのであれば、ここの表の中に入れていただければありがたいなと思います。よろしくお願いします。

○事務局

地球温暖化の防止というのは、国崎クリーンセンターの理念の一つでございますので、そういうもので皆さんに分かっていただくような努力、検討はしていきたいというふうに考えております。以上です。

◎委員長

はい、ありがとうございます。他に何かございますでしょうか。はい、どうぞ。

○委員

植生のところで補足をしたいと思います。今回の調査で分かったことは、鹿の食害によって林床が徹底的にやられてるということです。林床の草本層は林の中の一番下の層です。林床の植物によってカバーされている割合が2.8%ですから、10m掛ける10mの調査枠を取ると、その枠内の約3㎡ぐらいしか植物に覆われてないということです。土壌の流出が非常に起こりやすい状態になっています。その鹿の食害の影響で、先ほどのエドヒガンは発芽しても鹿に全部食べられて、なくなっていることがわかりました。能勢電がこの前このエドヒガン回廊というパンフレットを出したんですけど、この中にもありますように国崎クリーンセンターのエドヒガンは約250個体も生育しており、国内でも有数の多分国内で日本一の生育密度じゃないかと思います。それぐらいの個体数はあるんですが、この後継樹がなかなか育ってないというのは、一つ大きな問題である。

それともう一つやっぱり土壌の流出が起こる恐れがあるので、今はもうクリーンセンター

のほうでは、ミツマタの植栽等を考えていただけてはいますが、少し植栽を急いだほうがいいんじゃないかと感じました。そのまま放置するとどんどん土壌が崩れていく。ミツマタってというのは鹿が嫌いなので食べないんですね。だからそういうものを植えて林床を保護するっていうような対策が、今後必要になるかなと思います。以上です。

◎委員長

はい、ありがとうございました。特に事務局のほう今の件、何かございますか。

○事務局

今おっしゃっていただきましたミツマタの件ですけども、31年度の予算の中で一定の量を植栽をさせていただいて、実験的な状況になると思いますけどもやってみたいなと考えております。

◎委員長

はい。ありがとうございました。他、何かございますでしょうか。

○委員

今ミツマタの話が出たんですけど、クリーンセンターでやられたら黒川にみんな鹿が来るんですね。やっぱり全体的に能勢町も含めて、これはしてもらわないと、もう鹿だらけだからちょっとそのテスト的にやられるんだったら、黒川でも能勢町もやっぱり一緒に何かやらしていただいて、早く対応をせんことには、もうどうにもならんぐらい増えてますんでね。クリーンセンターだけが、そういう意味で。ちょっと考えていただきたいというふうに思います。

○事務局

今のご意見よくわかります。ただ、ちょっと全体的なかなり広い範囲っていうのは、ちょっと今回は無理だと思いますので、ただ今回は、本当にその食害がされないのかどうかとかいう部分を研究する部分を含めてやってみたいなというふうに思ってますので、これで一定の成果が出るということであれば、広げていくというふうなことも考えていきたいと思っております。

○委員

ミツマタを植えても、そのミツマタを植えたところから鹿がどんどん逃げていくっていうんじゃないくて、単に鹿が食べないだけなので、多分その黒川に移っていくっていうことはないと思います。

◎委員長

はい。なかなか鹿の気持ちにはなれないので。他に、どうぞ。

○委員

エドヒガンについてですが、やはり成木から種を取って育成するという必要かもしれません。だいぶ前に鉢植えで育てたやつを植えられたんですが、全部鹿に食われてなくなったってことがあります。鹿がいないところでちゃんと育てていくということも必要かも知れません。

◎委員長

はい、ありがとうございました。他に何かございますでしょうか。

○委員

2年目でして、まだわからんまんまで質問をさしてもらうんですが、まず今の鹿についても、うちの家の裏まできてるような状態です。だから何かあったら対策は町とか、そういうようなんでせんなんとは思いますが、ここだけということではないと思っております。

もう一つごみ処理の事業年報っていうのが出てるっていうことを聞いたんですが、私もまだ2年目ですので、そういうことも知らなくて毎年何か出てるようでしたら、自分で見たらいいんですが示していただけたら、紹介していただけたら嬉しいなと思っております。

◎委員長

事務局何かあれば。

○事務局

確かにごみ処理の年報につきましては、毎年発行させていただいております。ホームページ等でもご確認できるということもありますし、事務局のほうに来ていただきましたら、ご覧もいただけるし、余分があればお渡しできるかなというふうに思います。

◎委員長

はい、ありがとうございました。他に何かございますでしょうか。

○委員

一つだけ低周波って距離に比例するんですか。いわゆる遠くなれば数値は落ちるんですか。

○事務局

低周波音につきましては、通常の間こえる音に比べれば、距離の減衰は少ないというふうには言われてはおります。減衰しないというわけではないとは思いますが、ただかえって遠くへ飛ぶというような性質があるものですから、どこから来た低周波なのかいうのを、まず判別しにくいというような特徴もあるようでございます。以上です。

○委員

そしたらちょっといわゆる測るところを、もうちょっと増やしてもうてもえんちゃうんかな。

○事務局

いわゆる国崎クリーンセンターの影響を見るという視点で調査地点を選んでおります。ですから、施設の中とちょうど田尻川を挟んで対面である東海カントリーなどで測らしていただいて、大きな数値変動はこれまで見られないというような状況でございますので、改めて調査地点を増やしていくというのは、考えにくいかなというふうには思っております。以上です。

◎委員長

はい、ありがとうございました。他に何かございますでしょうか。

○委員

ちょっとこれ余計なことやけど、酸性雨って最近家よう傷むんですけど、この大気の何で酸性雨というのは、どの数値が増えたら酸性雨出ますの。これあんまりごみは、こことは関係ないか分からんけど、酸性雨というのは何が増えたら酸性雨で困るんですか。教えてもうたらしいなど。

○委員

酸性雨のものは、窒素酸化物と硫黄酸化物、いわゆるNOx, SOxっていうものが雨水に溶けて、それで流れていくと。ただ、これは物質も、もちろんごみ処理施設からも出ないようにしてありますが、少しは出ることはあるかもしれませんが、今現在日本では、それよりは他から飛んでくるというもののほうが、はるかに影響が強いということが言われてまして、原因としてはそういうことですが、それをどう減らしていくかっていうのは地球規模的な課題かなというふうには思っております。

◎委員長

ありがとうございました。他に、何かございますでしょうか。

○委員

平成30年度の3月までの1年間のダイオキシンの一覧表を、多分6月ぐらいにまた作っていただけたらと思うんですけども、これ排ガス処理の活性炭に吸着したダイオキシンの量まで含めた、恐らく世界で唯一のデータです。毎年実は、私このデータを見るために来てるような会議なもんですので、楽しみにしておりますのでよろしく願いいたします。

○委員

そんなデータはないんですか。

○委員

ございません。先日岡山大学の川本先生に話をして実際に見せたら、これは珍しいということでおっしゃってました。

○委員

すごいデータですね、そしたら。

○委員

そうですね、はい。

◎委員長

ここの施設は、そういう意味で環境に対してはすごく配慮をされているっていうことで、そういう中身の管理を十分されているっていうところの話になると思いますので、そのデータは非常に貴重ということですので、これからも継続して話題にはしておきたいと思います。

○委員

先ほどの低周波音の件なんですけれども、調査地が幾つかあってその中に発生源周辺っていうのがあるんですが、これは具体的にどこなんですか。この建物の中ということなんですか。

○事務局

建物正面、ちょうど多目的広場がございますけども、その前あたり計量棟の辺りですね。その辺りで建物周辺の低周波音を測らせてもらっています。以上です。

◎委員長

ありがとうございました。他に何かご質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは(2)のところで終わりましたので、一応議事のほうは、あと残りその他っていうことになっておりますが、事務局は何かございますでしょうか。

○事務局

特にはございません。

◎委員長

皆様のほうから、あと何かご議論しておくことはございますでしょうか。よろしいでしょうか。なければ、今日はこれで終わりにさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。委員の皆様におかれましては、慎重かつ円滑にご審議をいただきまして誠にありがとうございました。

それでは、これもちまして第56回環境保全委員会を終了いたします。

19時35分 閉会